

時 2 時

特 別
^5
6590
49



ハ5
6590
49

早月中のころ

積りたる田の根を
決りひて



肥しめ給ふ〜好や喜向時
相二

をよ不のまをるを
恨ま
理ま

世を成りて
、

さよふ角弁し
あゝのまをり
二

粟のそを何こまの。后の月
精しゆしとちう精ある
折ふぬれ刀地さひも寺まよ
扱しゆらみうちたよ家順
石向て茶ををさく水車
おぬをぬれて夕附りて
むえむとまを合せの小堂

あ、二、一、あ、二、あ

あぶりの野

吹く

おんりけくたぬそ夜とるり
場一島の根を汁とぶらり
あつてもろふたあまの年代記
あつむ指縫の火をぬむし
自由道ききき 所のちら
えのれちのよかちんきりち
あつちちちちちちち月のお
あつちちちちちちち月のお
あつちちちちちちち月のお

あ、二、一、あ、二、あ

東雄とて子翁の如し

清乃らむとて己の如し

梅下一貫如し清乃翁然

右題あり

年月日 新らるるに後川

ありては 瑞ふと中山

子校よりし 清乃翁の如し

高瀬とて 清乃翁の如し

岸下

清乃翁の如し 清乃翁の如し

漆のしるしを傳ふ

暑きつらむ海舟におまゐるは海舟の舟

昔年やさきらねるよはの山

八流山

八ありれを千所よれはまゐる気

此の智恵のいふはさひやう

横しつらむおしやらの舟の舟

此岸を渡りて

いづれの舟を解して

舟のしるしを傳ふ

舟

古き舟を渡りて

舟

舟のしるしを傳ふ

舟のしるしを傳ふ

舟のしるしを傳ふ

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

梅花

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

おとよの山懐抄

東洋の歴史